

YES JAPAN2008 体験談

青木泰裕

国際基督教大学教養学部社会科学科 4 年生

YES JAPAN2008 に参加

現在、ドイツ・ミュンスター大学に留学中



まずはこのプログラムに自分が参加した理由を説明したいと思います。1つ目は、内容です。ICU では環境や経営といったテーマを軸に勉強しているので、単純にプログラムの内容に興味を持ちました。2つ目は、先を見据えてです。秋学期からドイツへの留学を控えていたため、英語かドイツ語を使えるインターナショナルな環境に自分を置きたいと考えていました。そこにこの話が来たので、まさに渡りに船、参加を決めました。

次にこのプログラムの印象ですが、「国際的」そして「濃厚」、この2点につきます。まずは前者から。20 数カ国から 30 人以上の学生が集まり、2 週間という短期間ではありますが、寝食を共にして勉強をする。日本にいることは間違いないのですが、それを全く感じさせないこの空間は何とも不思議な気持ちにさせてくれました。先進国ばかりではなく、アジアの様々な国からも参加者がいるので、実に様々な考え方や文化に触れることが出来ることも魅力です。また、英語のネイティブスピーカーが去年は少なかったこともありますが、みんなゆっくり喋ってくれていたため、英語がそれほど得意でない自分も十分理解出来ました。そして、現在留学していて感じるのですが、留学生である自分はやはり他の国から来た留学生と一緒に居ることが多いのが事実です。もし留学を控えているまたは考えているという人がいらっしやれば、そういった雰囲気味わえる良い機会でもあると思います。次に後者です。毎日朝から晩まで大変充実したプログラムなので、正直きついと感じることもありました。眠気を覚ますためにコーヒーをあれほど飲んだのは人生で初です。しかしながら、それ以上に充実感や達成感に満ちた時間であったことも事実です。特に海外からの学生は大学院生が多く、優秀な人が多かったことので、そんな仲間と話ができた時間は大変充実感に満ちたものでしたし、またプログラムの最後を飾るケーススタディの後の達成感は何とも言えないものがありました。

最後に経験者としてアドバイスを。このプログラムは非常に国際色豊かな点が特徴の1つです。しかし裏返せば、参加者は皆その国の代表であるということです。もしあなたがプログラムに参加されたなら、日本について様々な固定観念を持ってやって来る参加者に、本当の日本を伝える役目を担っているということも頭の片隅に置いて振る舞って欲しいと思います。日本で開催されているので尚のことです。場所はドイツですが、自分もその気持ちだけは今も持って留学しています。これを読んで一人でも多くの人に興味を持っていただけたら幸いです。ぜひこのプログラムに参加されることをお奨めします。

(2008 年 12 月 10 日)